

リレー随筆

「医療もの」の映画・ドラマを楽しむ

奄美中央病院 内科 平元 良英

はじめに

医師になって30年以上が過ぎ、歳をとったためか外に出る機会が減り、自宅で過ごす時間が増えてきました。今やネット環境があれば映画やドラマは家で楽しめる時代。スターウォーズからDisneyまで様々なジャンルの映画を観る私ですが、その中でも「医療もの」の映画・ドラマについては、特に楽しんで鑑賞しています。この私のささやかな楽しみをちょっぴり紹介します。

たくさんの「医療もの」と私の半生

古今東西、「医療もの」の映画・ドラマは恐ろしくたくさんあります。多くの人にとっ

て医療は身近な存在で、誰しものが親近感を覚えるものですし、日頃接する病院スタッフが術中どんな会話をするのだろうか、勤務後の日常生活はどうなっているのだろうか、など病院の裏側は誰しものが気になるところでしょう。「医療もの」が人気となるのも理解できます。また、医療にはハラハラ・ドキドキ、怒り・悲しみ、感動、感涙等の小道具が満載です。多くの作家、脚本家らの触手が伸びるのも当然といえます。そして、何を隠そう私も子供時代から「医療もの」を愛してきた一人なのです。「ブラックジャック」(手塚治虫)、「ハチのす大将」(ちばてつや)等の漫画や「赤ひげ診療譚」(山本周五郎)、「遠き落日」

表 私がみた「医療もの」作品集 (思い出せる範囲で)

映画	ドラマ	小説/マンガ
パッチ・アダムス	Dr・コト-診療所	ブラックジャック
赤ひげ	コードブルー	赤ひげ
カッコウの巣の上で	コウノドリ	はっぴーえんど
カンゾー先生	透明なゆりかご	神様のカルテ
ドクター	母をたずねて三千里	チーム・パチスタの栄光
シッコ	ER	村医
ヒポクラテスたち	白い巨塔	花埋み
いしゃ先生	輝く季節の中で	遠き落日
Little DJ	ナースのお仕事	ブラックジャックによるしく
風に立つライオン	救命病棟24時	ナースマン
ディア・ドクター	医龍	研修医ナナ子
本日休診	グッドドクター	19番目のカルテ
病院へ行こう	JIN-仁-	フラジャイル
レナードの朝	アンサンングシンデレラ	最上医の名医
スクール・オブ・ナーシング	病室で念仏を唱えないでください	おたんこナース
ジェネラルルージュの凱旋	ベン・ケーシー	ハチのす大将
華岡青洲の妻	京都かるがも病院	女医レイカ
	泣くな研修医	Dr.くまひげ
	ディア・ペイシエント	きりひと讃歌
	ラジエーションハウス	きらきらひかる
	アルプスの少女ハイジ	麻酔科医ハナ
		最上の命医

(渡辺淳一)等の小説を読み漁り、映画・ドラマにも引きこまれていきました(表参照)。かの山口百恵主演の「赤い疑惑」(古い・・・)で白血病と闘う医師の誠実な姿勢を忘れません。こんなことの積み重ねで医師への思いが固まっていったのかもしれませんが。

好きなジャンルは、「人情系」

「医療もの」を独断でジャンル分けすると、
 高度技術系
 使命・正義感系
 倫理・社会派系
 コミカル系
 人情系
 その他

とできるのではないかと思います。もちろん幾つものジャンルにまたがる物語も多いし、分類困難例もあります。

「高度技術系」の代表には、技術を売りにする「ブラックジャック」「医龍」，“私失敗しないので”の「外科医・大門未知子」などがあります。同じように、「使命・正義感系」には「コードブルー」「ER」「救命病棟24時」など、倫理・社会派系には「カッコウの巣の上で」「白い巨塔」など、コミカル系には「病院へ行こう」「ナースのお仕事」などがあります。しかしその他を占める大勢の映画・ドラマは、「人情系」です。そして私の好みも、患者・家族・地域との繋がりを大事にする、この「人情系」なのです。

「人情系医療もの」を一部紹介

そのうちの好きないくつかを紹介します。

【1】映画「パッチ・アダムス」。主人公ハンター・アダムスは、当時無味乾燥で冷たい存在だった病院に型破りの触れ合いを提供し、患者に笑顔を呼び戻します。そして貧しい人々に対して、無料診療所の建設を試

みます。

【2】映画「赤ひげ」。原作は山本周五郎・著「赤ひげ診療譚」で、黒沢映画の代表作の一つになっています。江戸時代の小石川養生所を舞台にして、庶民の人生模様と所長・赤ひげとの交流が描かれています。医師見習い・保本登は、養生所の貧乏くささと無骨な赤ひげに好感を持たずにいましたが、診断能力・医療技術の確かさと彼を頼る貧乏な人々の姿に次第に心を動かされていきます。

【3】NHKドラマ「透明なゆりかご」。小さな産科医院で日々繰り上げられるエピソード。シングルマザー出産、女子高校生の自宅出産、中絶問題、産科危機、出生前診断・・・など決して稀ではない問題揃いです。ここにはスーパードクターはいません。一見地味ですが、誠実な医師と職員とが力を合わせて前を向いてゆく努力には勇気づけられます。綺麗な挿入歌が心地良さを更にアップさせてくれます。

【4】往年の宮崎駿・高畑勲アニメ作品「母をたずねて三千里」は、イタリア・ジェノバの少年マルコの物語です。父の事業経営難を助けるべく、母は遠くアルゼンチンに出稼ぎに行き、体を壊します。マルコは一人アルゼンチンへ旅をし、そしてついに寝込んでいた母を探し出します。母は献身的な医師の治療のお陰で回復し、マルコとともにジェノバに帰ってゆくのです。

物語の主軸は母との再会ですが、実はこの作品にはもう一つのテーマが隠されていました。作品中で垣間見えるのは、父親は貧しい人々のための無料診療所の事務長で、その経営に日々頭を悩ませていたということです。マルコは、母の出稼ぎの原因となった父の仕事のことを憎んでいましたが、母を訪ねる旅の途中で貧しく医療を受けられ

ないたくさんの人々の存在を知ったこと、しかしながらやっと受けられた医療で劇的な改善をしたことなどを体験し、貧しい人々の医療に尽くしてきた父の仕事の尊さに気付きます。そして最後イタリアへの帰路で、自らも恵まれない人々のための医師になる決意をするのでした。

【5】漫画「はっぴーえんど」（魚戸おさむ）。まだ映画化はされていません（されることを願っています）。終末期在宅患者がハッピーなエンドとなるよう、担当医・医療スタッフが日々努力をします。一人一人の患者背景・家族背景が細やかに作られていて、そこから逃げずに全人的に患者を見る主人公に心を打たれます。こんな医療を提供したい！と心から思わせる作品です。

「医療もの」製作で気づいたこと

「医療もの」の製作上のことで触れておきたいことがあります。

「パッチ・アダムス」「レナードの朝」「コードブルー」「ER」「仁」ほか、びっくりするほど多くの作品で、医療スタッフ間での恋愛発展があります。同じ志で頑張るもの同士、共感と共鳴が常にあり、恋愛に発展することは不自然なことではないし、フィクションであれば物語に花を添えることにもなるでしょう。考えてみれば実際の医療現場でも良くみられている現象でした（自分も・・・）。当然といえば当然のことかもしれません。

一方、場面設定では、あまりにも現実とかけ離れている描写のため興醒めすることがあります。喫茶店のようにきれいな医局、ひよひよ遊び歩く医師などなど、ありえませんか。鑑賞をする際は、少々のは大目に見るといった観る側の器量も求められるかもしれません。

「医療もの」はなぜ多くの人々の心を掴むのか？

「医療もの」には、一見高慢で冷たそうなものやコミカルに笑いを取るだけにみえるものもあります。しかしそれらも含めほとんどの作品には、命の尊さと人を思いやる気持ちとが込められています。これが多くの人々の心を掴んで離さない理由と考えます。そして私も医療者にとっても学びになることがたくさんあると実感します。物語に込められている思いは、国民が医療に対し熱い期待と希望を持っていることの顕れなのではないでしょうか。いいかえると私たち医療者に対する「もっとがんばれ」とのメッセージであるともいえます。私たちはその期待にいかに応えられるか。自問しつつ日常の医療の中で少しずつでも前を向く存在でありたいと思います。ただの趣味ではあっても「医療もの」鑑賞は、私にとってはしばしば新たな決意の基となっているのです。

今回自分の好みの作品を整理してみて、貧困に対する取り組みをしている作品がいくつもあることに気づきました。貧困のせいで医療を受けられないということのない社会にしたいという思いは、私の医師志望の原点でした。今はSDH（Social Determinants of Healthcare：健康に影響を及ぼす社会的要因）として、貧困は医学分野のテーマにも当てられていて一縷の救いを感じます。しかし一方で貧困による健康格差が増大していることも周知の事実です。今一度初心に立ち返って奮い立ちたいと思います。映画・ドラマは、私自身に問いかけをしてくれる存在でもあったといえます。これからも楽しんで、かつ学んで鑑賞していこうと思います。皆さんもどうですか？

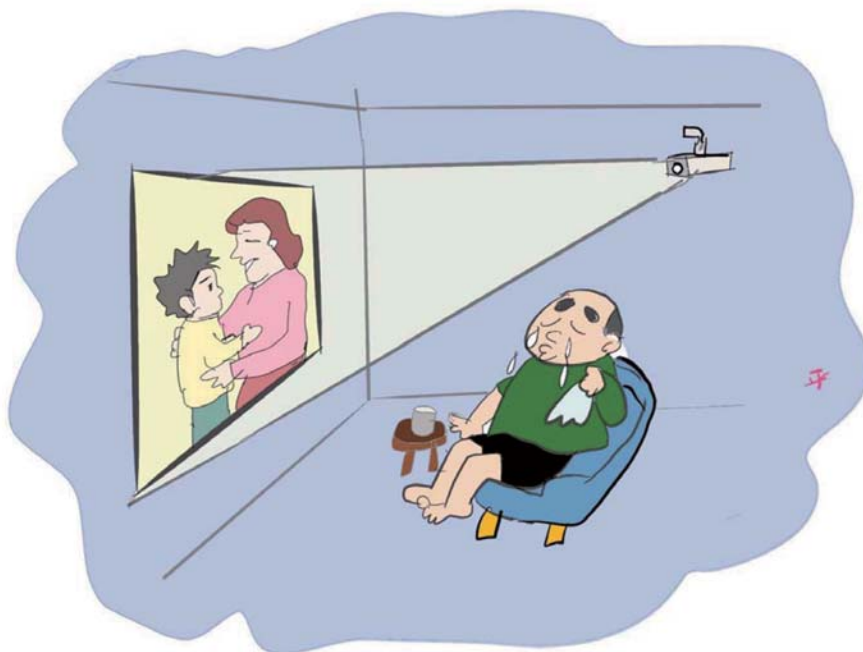


図 自宅のミニホームシアターで寛ぐ

おわりに

この夏の終わり、私の病院で新型コロナウイルスが発生しました。多くの皆さんにご心配とご迷惑をおかけしたこと、この場をお借りして深謝申し上げます。

日々パニックになりそうな気持ちを抑えて一致団結した職員、倒れこむほど疲労しつつも奮闘しリーダーシップを発揮した院長、この方達の行動は日頃の付き合いのなかでは見られなかった非常時のものであり、目を見張りました。遠方から細かくご指導頂いた感染症専門家諸氏、当院に代わり救急を診て頂いた地域各病院の皆さん、往診に駆け回って下さった地域開業医の先生方、御配慮頂いた医師会奄美支部の皆さん、様々な融通を効かせて下さった薬剤師会の皆さん、頻回に現地でご指導頂いた鹿児島大学感染制御部の先生、保健所長・職員の方々・・・みなさんの温かさをひしと感じました。更に鹿児島市のある病院は、当院の窮乏に際し大量の医療物資の提

供をされ、なんと看護師さん2人のボランティア派遣までもして下さいました。私は感動で思わず涙しました。そうして私たちは危機を乗り越えることができました。事実は小説よりも奇（感動）なり。ドラマは映画の中だけではないのだということを知りました。

追 補

さて1日の仕事が終わった。部屋のミニホームシアターをスイッチON！ なんの映画にするか・・・おっとポテチとコーラを忘れてはいけない（身体に良くないが・・・）。ではソファに寝そべて至福の時間に入るとしよう。当院の当直支援をして下さっている熱心で明るい原田麻純先生（県立大島病院）に次の随筆バトンを託して・・・

次号は、県立大島病院 原田麻純先生のご執筆です。
(編集委員会)